

さんいん 企業 物語

SAN-IN
COMPANY STORY

三

栄

4 WEB発信強化



健康食品の販売手法について相談する坂田年彦社長と美津江会長＝松江市玉湯町湯町

シイタケ菌糸体培養培地抽出物（LEM）をベースにした健康食品「茸源」を主力商品に据える（株）三栄（松江市玉湯町湯町、坂田年彦社長）は、丁寧な信頼関係を築いて顧客をケアする営業スタイルで全国トップクラスの売り上げを記録し、PB商品の開発も実現。しかし法規制の厳格化などの影響で次第に新規顧客の獲得が難しくなってきた。そんな中、幼い頃から茸源を愛用していた年彦（43）が社業を手伝い始める。

本業の合間にサポート

生まれつき体が弱かった年彦は幼少時、毎日のように鼻血や熱を出し、アトピー性皮膚炎もひどく、入園したばかりの幼稚園も欠席が続くような子どもだった。しかし三栄に入社して免疫学を学んだ母坂田美津江（72）が粒状の茸源を飲ませ続け

る中、皆勤賞をもらい始め、青白かった顔色は赤みを帯びるようになった。

三栄の社員旅行には美津江と共に参加し、初代社長の奥村恒雄に孫のようにかわいがられていた。世話になってきた商品と会社が低迷する現状を聞いた年彦は「2023（令和5）年から「少しでも役に立てるなら」と本業の合間にサポートし始めた。

理学療法士として専門学校の講師を務めていた年彦はその年の春に職を辞し、身体機能の回復や向上をサポートするプロとして起業。30年開催の島根県みあり国スポ・全スポに出場する選手や、高校の野球部やソフトテニス部で活躍する選手らをトレーナーとして支えたり、一般



理学療法士としてボディケアを行う坂田年彦氏＝松江市内で

市民向けのボディケアを行ったりしていた。

三栄には週2日程度出向いて停滞していたWEBでの情報発信を強化し、ネット通販もスタート。二足のわらじをはく生

【会社概要】
所在地 松江市玉湯町湯町1554-2
電話番号 0852(62)2780
営業種目 健康食品・化粧品
卸小売業
代表取締役社長 坂田年彦
従業員数 7人

二足のわらじで1年半支え 母から事業承継で4代目に

活が約1年半続いた24(同6)年の秋、美津江から事業承継を打診される。

積極的に新規企画運営

古希を過ぎ、M&Aも含めて事業の継続を思案していた美津江が当初、後継に考えていたのはベテランの女性社員だった。しかし、当人は「経営は自信がありません」と言う。他の社員に打診すると年彦を推

す言葉が出たため、長男に意向を確認。「困っている母親を助けることができ、社員さんが受け入れてくれるなら」。年彦は25(同7)年4月、取締役として正式に入社した。



ホームページなどでの情報発信に力を入れる坂田年彦社長＝松江市玉湯町湯町

「ばけばけ」とタイアップした広告を一畑バス車体に掲載したりと、精力的に走り回った。頻度が減っていた健康セミナーを相次いで開催し、他社主催のイベントでは自身も講師として演壇に立った。

案も多かった。「社員さんからもアイデアや意見を募り、一緒に事業を進めていく重要性を改めて痛感しました」と年彦。企画運営の手法を見直し、社員との対話を重ねることを意識するようになった。

需要は高い水準を維持

昨年、創業50年を迎えた三栄。主力商品「茸源」を数十年にわたって愛用し続ける顧客がいる一方、健康食品への厳しい法規制の影響もあって近年は新規顧

高校野球のトレーナーとして、島根県高野連野球力測定会をサポートする坂田年彦氏。右は出雲市内で



客の獲得に苦しんできた。しかし美津江は、「環境破壊が進み、工業的な食品が増えてきた現代だからこそ、腸内活動など、人間の体を持つ本来の機能を発揮できるようにサポートする健康食品

の需要が高まっていると考えています」と語る。

今年4月、美津江から4代目のバトンを引き継いだ年彦も顔を引き締める。「現在、平均寿命と健康寿命の差は約10年あります。この期間が長ければ本人だけでなく、介護を担う子どもや



シールがいっぱい貼られた坂田年彦氏の幼稚園時代の出席カード

孫世代も笑顔で暮らすことはできません。誰もが健康でいるためには正しく体をつくるのが大事。それを発信していくことが私の使命だと1年かけて感じました」

病气予防や健康維持のためだけでなく、フィットネスや美容への関心の高まりによって、健康食品需要は高い水準を維持している。「買う人、売る人、作る人が三者三様に栄えますように」という思いを社名に込めた三栄は、学術的な裏付けのある商品

を正確な情報と共に届けてきた。創業以来一貫したこだわりは、今後さらなるファンを増やしていくに違いない。

(文中敬称略)

—おわり—
(フリーライター・門脇奈津子)